

福智町施政方針

町長が示した平成21年度町の取り組み

福智町議会3月定例会で、浦田弘一町長が本年度の施政方針を発表しました。行財政改革を町政の重要課題として取り組んだ浦田町政、その発表の中から主な内容を抜粋してお知らせします。

町

民のみならずから与えられた任期が、残すところ一年となりました。いわば、まどめの一年でもあり、公約に掲げた政策の実現に向けて、更に努力を重ねてまいれる所存でございます。ご案内の通り、平成18年3月6日の福智町誕生以来、町内の各機関・団体等が相次いで統合し、少しずつ、福智町らしさが芽生えてきたのではないかと考えています。らしさが、増幅して町民共有のものとなるにつれ、固有の風土として定着することに努めます。私は、町外に発信できる風土の有無が、町勢伸長を左右する基準になると考えています。ですから、さまざまな視点で風土づくりの取組みを進めていかなければなりません。そのためには、町民のみならずのご協力が必須の条件と考えています。

防災

突発的な災害発生時に備えて、十分な準備をしておく必要があります。町の地域防災計画に沿って、日頃から水防資材の充実や避難体制の整備を進める等、万全を期してまいりたいと思います。中でも、避難広報の中核となる防災行政無線の有効な活用を心がけていかねばならないと認識いたしております。また、住民の命と安全を守る消防活動につきましても、防災意識の高揚を図り、町内消防団員の訓練に努めてまいりたいと考えております。

広報・ホームページ

広報活動は、町民のみならず行政とを結ぶ重要な伝達媒体であります。21年度におきましても、情報提供サービスの充実を図り、どなたでも読みやすい、わかりやすい内容提供を常に心がけるとともに、情報公開の一端として重要な位

となりますので、あらゆる機会を捉えて訴えていきたいと思っております。また、町長に就任してからずっと、行財政改革を町政の重要課題として取り組んでまいっています。平成20年度は、公共施設等の統廃合等の基本方針を出し、順次その推進を図っているところでございます。平成21年度も、行政機構の見直しにより、財政負担の軽減化や効率的な事務運営を行ってまいりたいと思っております。加えて、平成19年度に策定しました「総合計画」につきましても、今年2月に答申をいただきました「観光のまちづくり」に向けての方策や、今夏に答申予定の「まちづくり実施計画」を踏まえて、その具現化に努めていきたいと存じます。更に、税金や使用料等の滞納問題は、町民のみならずの間に、不公平感や町政に対する不信感を生じ

予算編成

アメリカに端を発した経済・金融不況の波は、我が国にも甚大な影響を与え、100年に1度と言われる程、経済環境の悪化は深刻な状況になってまいっています。とりわけ、経済基盤の脆弱な地方自治体は、

公用財産

普通財産の維持管理についてで

職員の配置

この3月末で20名の退職者が出る予定であり、21年度以降も定年者を含め、かなりの退職者が予想されますが、その補充は、抑制の方向で対応したいと考えています。また、現在抱えている課題の解決や住民サービスの充実を図るためには、適切な職員配置が不可欠であり、事務機構の見直しを進めつつ対処してまいりたいと存じます。

農業振興

農業は本町の基幹産業であり、振興度合の帰趨が、町勢浮沈のカギを握っていると言っています。過言ではないと思っております。国の方針により、米の減反政策が続けられ、好むと好まざるとにかかわらず、大豆や麦の栽培を余儀なくされているのが現状だと認識しています。また、後継者不在のため、放棄した農地も数多く存在し、この傾向は今後もますます深刻度を増していくものと予想されます。こうした現実を改善していくためには、担い手の育成・確保に向け早急かつ有効な手立てを講じるとともに、地産地消の機運を町全体で高めていかなばと思っております。広谷地区等の棚田をはじめ、観光資源の有力な要素となり得るものもございますので、農業委員会や農業関係団体と連携して、多面的な角度から、農業振興を図らなければならぬと考えています。とりわけ、農業を活用した起業化については、引き続き検討を重ねてまいりたいと存じます。ところで、雇用の場の創出は、従来にも増してその必要

教育文化

私は町長に就任以来、教育に力点を置いて町政推進を図ってまいりますが、21年度も教育条件の整備に

観光促進

町内にはさまざまな地域資源がありますが、その有効活用を図ることによって、観光のまちづくりが可能になると思っております。合併以後、東京や福岡市、北九州市で福智町の物産品の販売活動を行なったり、福岡都市圏から観光客を誘致するバスツアー事業を展開する等、町のPRに努めてまいりました。この2月には、平成19年7月に立ち上げた「観光促進委員会」より①観光資源の有効活用②交通アクセスの充実③町を魅力的にアピールするため④観光団体の組織化の4つの柱から

男女共同参画

昨年7月に条例の策定委員会を立ち上げ、10回にわたる慎重審議の結果、1月20日に条例案の答申をいただきました。豊で活力のある福智町にするためには、男女が対等のパートナーとして性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる環境が必要であります。そうした観点から、本定例会に条例案を提出しておりますので、是非可決いただき、今後の基本計画の策定等につなげていきたいと存じます。

ささかぬい問題でもあり、行政全体が緊張感を持って、解決への努力と工夫を重ねていかねばと肝に銘じているところであります。いづれにいたしましても、町民の方々に信頼していただける行政、そして安心感を与えることのできる行政を目指して、平成21年度も、職員一丸となって町政推進にあたる所存でございます。それでは、その諸施策について、順を追ってご説明申し上げます。

従来にも増して厳しい行政運営を強いられることとなります。そのよな中ではあります。政府は景気浮揚に向けた施策を、矢継ぎ早に打ち出しています。本町においても、こうした動きと連動して、町内の活気を生み出す事業の実施が必要であると判断しているところでございます。従いまして、平成21年度当初予算額は、対前年度比12%強の増で編成をいたしております。とは言い、財政健全化の確保という基本線は確認しつつ、最終的な経費負担者である町民の福祉向上に資するよう編成作業を行なっております。町内小中学校での少人数授業の実施や読書環境の充実そして子ども達の安全面の確保等、教育委員会と連携して取り組んでまいりたいと存じます。また、児童保育の拡充を含め、安心して子育てができるような施策の検討も、積極的に進めてまいりたいと存じます。あわせて、老朽化が進んでいる校舎等の耐震調査や改築工事も、逐次計画しているところであります。赤池と方城の学校給食センターを統合し建設する予定でございますが、このことにより、市場小学校の運動場整備を前進させたいと思っております。ところで、文化の成熟度は、そこで暮らしている住民の意識に左右されると言われています。私は、いろいろな機会を捉えて、個人々の生きた方が文化であると話していますが、文化の香り高い町にするためには、町民のみならずが心豊かに生きがいをもって暮らすということが、必須の条件になってきます。そうした条件が整えられるよう、工夫を重ねて実効のある手立てを講じてまいりたいと存じます。また、町内各所に存在している貴重な文化的資源の有効的活用も、積極的

